

ボランティア・市民活動を広げ、応援する！

# ネットワーク

## Network

NO.368 2020年

# 10月号

特集

## 性差別と生きづらさのない社会をめざして

セルフヘルプという力 第24回

精神疾患の親をもつ子どもの会 こどもぴあ  
子どもという同じ立場で

思い立ったがボラ日

東京ボランティア・市民活動センター  
夏のリモート・ボランティア2020

いいもの みい~つけた！ vol.27

社会福祉法人 桂会 あしたば作業所  
木のぬくもりを感じるパズルや組木

あすマネ

団体の紹介文を見直したい！  
どんなことを書き、何を意識する？



# 夏のリモート・ボランティア 2020



「高齢者施設でオンライン特技ボランティア」  
美空ひばりの「お祭りマンボ」に合わせて、ボランティアさんが踊るスクリーンを見ながら体を動かしている高齢者施設のみなさん。写真提供：なぎさ音楽苑



## 思い立ったが ジツ ボラ日

このコーナーでは、毎回一つの団体取材し、活動内容やそこで活動するボランティアさんの生の声をお届けします。

こんな状況でも、いや、こんな状況だからこそボランティアしたいと問い合わせしてくださる人たちがいる。

### 夏ボラ中止…… それでもできることはないか？

毎年、夏になると、東京ボランティア・市民活動センター（以下、TVAC）では、地域のボランティアセンターと連携して、「夏の体験ボランティア」キャンペーン（通称、夏ボラ）を実施している。ボランティア活動に参加するきっかけづくりとして、担当者は力を入れて企画してきた。

しかし、今年は、新型コロナウイルスの流行で、対面でかわることが主になるボランティア活動がごとごとく実施できなくなっていました。地域で活動していたボランティア団体も活動が一時停止してしまい、福祉施設の利用者などからは、「ボランティアさんが来なくなつて、さみしい」「話し相手がいなくなつてつまらない」などの



「ハガキで暑中&残暑見舞いプロジェクト」  
高齢者施設にお送りした暑中&残暑見舞いのハガキ。きれいに飾ってくださった。

声が聞かれた。一方で、TVACには、「ボランティア活動をしたい」「こんな状況でも何かできることはないか」と、問い合わせがきていた。

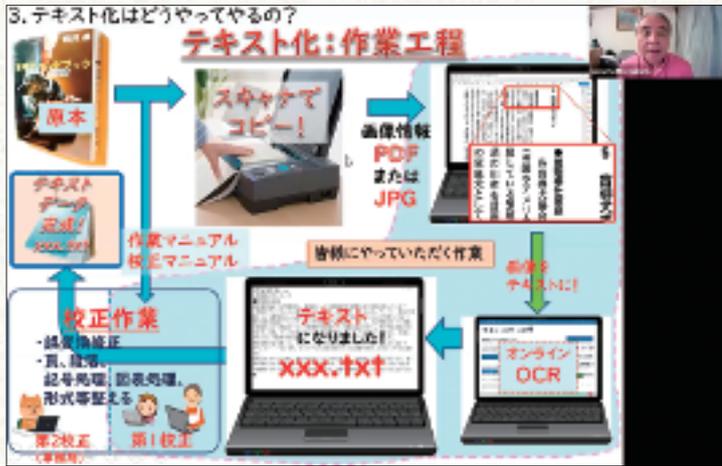
そこでTVACでは、コロナ禍であっても人と人が支え合えるように、夏ボラに代わるボランティアとして、「夏のリモート・ボランティア2020」（以下、リモボラ）を企画した。

夏ボラをはじめ、いろいろな事業で連携している福祉施設やNPOと相談し、生まれたプログラムが次ページの8つだ。

### リモボラならではの良さが!!

「高齢者施設でオンライン特技ボランティア」では、ボランティアがZoomを使って、特技を披露した。高齢者は、施設に設置されたスクリーンを見ながら、一緒に盆踊りをしたり、ピアノ演奏に耳を傾けた。このピアノ演奏は、なんとインドネシアのジャカルタからの参加だった。通常の





「チャレンジ！『本のテキスト化』～視覚障害者のために～」  
 参加者に向けたオンライン説明会の様子。企業からの参加希望も多く寄せられた。  
 ※このボランティアは、全国音訳ボランティアネットワークとの共催。全国音訳ボランティアネットワークは、「視覚障害者等のために情報を提供する事業を行うボランティア団体等」として、文化庁に申請・登録している。

「高齢者施設でオンライン特技ボランティア」  
 こちらは、海外から参加したボランティアの女の子が弾くピアノに耳を傾けている様子。  
 写真提供：なぎさ音楽苑

## 夏のリモート・ボランティア 8つのプログラム

- ①ハガキで暑中 & 残暑見舞いプロジェクト
- ②オンラインで暑中 & 残暑見舞いプロジェクト
- ③オンライン美術展『未来の宇宙』の作品「私の星」募集！
- ④高齢者施設でオンライン特技ボランティア
- ⑤折り紙のお花を作って「敬老の日」をお祝いしよう！
- ⑥日本語 de 国際交流～高校ってどんなところ??～
- ⑦チャレンジ！「本のテキスト化」～視覚障害者のために～
- ⑧聴覚障害のある高校生によるミニ手話講座 & 交流会

夏ボラであれば参加できなかったであろう海外からのボランティアも、オンラインなら実現できる。

「チャレンジ！『本のテキスト化』～視覚障害者のために～」は、視覚障害者が音声読み上げソフトで本を読める（聞ける）ような状態（テキスト）にするボランティアだ。こちらは、企業の社会貢献などでも、問い合わせが多く寄せられた。普段からパソコンを使って仕事をしていたり、在宅勤務の人が多くなっている中で取り組みやすいボランティアだったのではないかと思われる。

「ハガキで暑中 & 残暑見舞いプロジェクト」も、小さな子どもでも自宅で親が見守りながらボランティアに参加でき、親が活動先まで同行する必要がないことなどから参加しやすさにつながった。

昨年（2019年）のTVACCの夏ボラは、92のプログラムに662名の参加があったが、今年（2020年）のリモボラでは、8つのプログラムに子どもから高齢者まで550名以上の参加があり、企業8社（185名）も含めると、合計で730名以上が活動した。

**リモート・ボランティアのこれから**

とはいえ、課題もいろいろあった。参加する施設やボランティアのIT環境の整備が必要なことやインターネット上で参加する人たちの個人情報保護などである。TVACCでは、こうした課題に配慮しながら、今回実施してわかったリモートの良さを活かし、対面のボランティアと並行して、今後もリモボラを企画していきたいと考えている。

また、地域のボランティアセンターやボランティア団体でも、リモートでのボランティアに取り組んでいるところがあるようだ。ボランティアの一つの形として、一緒に広げていけたらと思っている。

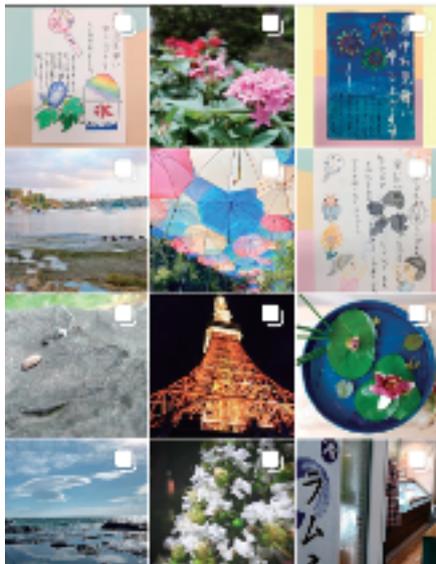
← 次ページでも  
紹介しています



# 夏のリモート・ボランティア 2020



「日本語 de 国際交流～高校ってどんなところ??～」  
日本に来て間もない高校進学をめざす若者たちに向けて、高校生ボランティアが Zoom で自分の通う学校を紹介した。

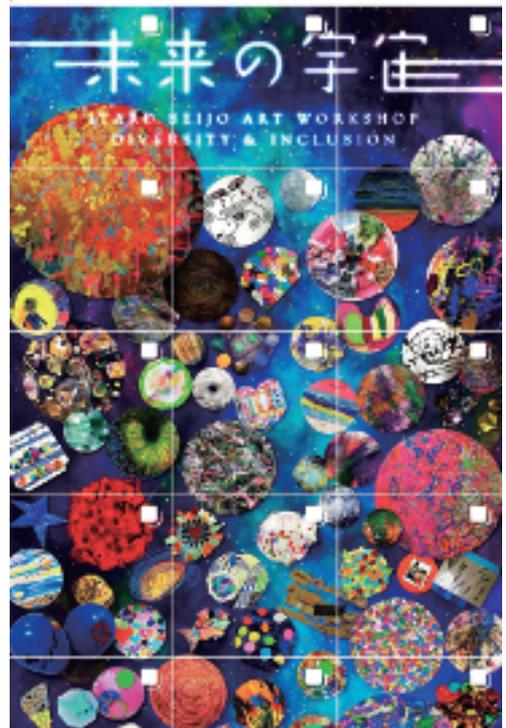


「聴覚障害のある高校生によるミニ手話講座&交流会」  
聴覚障害のある高校生たちと参加者が Zoom でつながり、手話を教わりながら交流した。

「オンラインで暑中&残暑見舞いプロジェクト」  
なかなか外の人と交流できない高齢者施設の利用者の方々に向けて、Instagram を使い、写真や動画、メッセージを届けるボランティア。



夏のリモート・ボランティア担当者



「オンライン美術展『未来の宇宙』」  
一般公募した個性的な「私の星」がたくさん集まって、こんなに美しい『未来の宇宙』が Instagram 上に誕生しました。障害のある人たちの施設イタル成城と NEC グループと TVAC との3者共催。写真提供：社会福祉法人いたるセンター イタル成城



「折り紙のお花を作って『敬老の日』をお祝いしよう!」  
敬老の日、ボランティアさんが折った花が高齢者施設の利用者の方々のお胸を飾った。折り紙デザイン：カミキィ 写真提供：なぎさ楽苑



## 深める

ボランティア・市民活動に役立つ視点や情報をお届けします。



# 性差別と生きづらさのない 社会をめざして

- 6 **寄稿** 「生きづらさ」の系譜をたどる  
— 「女性」として、「語り部」として過去と未来をつないでゆく  
◇文筆家 栗田隆子
- 11 10代女性が暴力や搾取に行きつかなくてよい社会を  
◇一般社団法人 Colabo 代表 仁藤夢乃
- 14 **インタビュー** 夫婦同姓・夫婦別姓が、自分たちで選べる国をめざして  
◇選択的夫婦別姓・全国陳情アクション 事務局長 井田奈穂
- 17 **あすマネ** 団体の紹介文を見直したい！  
～団体紹介文ってどんなことを書いて、何を意識したらいいの？～

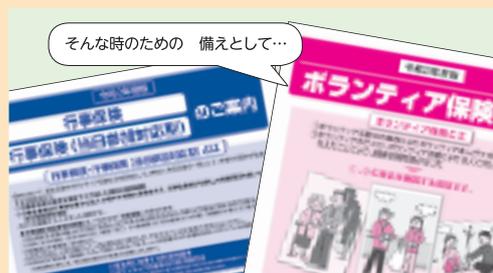
## 知る

ボランティア・市民活動のさまざまな形やボランティアに  
一歩ふみだすヒントを、ご紹介します。

- 1 **思い立ったがボラ日** 東京ボランティア・市民活動センター／夏のリモート・ボランティア 2020 を開催
- 21 **TVAC News Vol.8** ききマネ講座 これからのボランティア活動を考える～新しい課題と工夫～／地域の居場所の衛生管理を確認しよう～新型コロナウイルス感染症対策オンライン勉強会
- 22 **つぶやきブレイク vol.15** あがり症克服
- 23 **セルフヘルプという力 第24回** 子どもという同じ立場で  
精神疾患の親をもつ子どもの会 こどもぴあ
- 26 **いいもの みい～つけた！ vol.27** 社会福祉法人桂会 あしたば作業所  
木のぬくもりを感じるパズルや組木

## もしもボランティア活動中に怪我をしたら… 怪我をさせたり、物を壊したら…

※ボランティア保険および行事保険の加入は、東京都内の各区市町村のボランティアセンターまたは東京都社会福祉協議会窓口で手続きができます。



東京都社会福祉協議会指定生損保代理店  
有限会社 東京福祉企画

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂1-2  
研究社英語センタービル 3階

TEL. 03-3268-0910  
FAX. 03-3268-8832  
URL. <http://www.tokyo-fk.com/>



## 特集

# 性差別と生きづらさのない 社会をめざして

世界経済フォーラムが発表するジェンダーギャップ指数において、2019年、日本は前年よりさらに順位を下げ、153か国中121位という過去最低位を記録した。

“伝統的家族観”などと呼ばれる価値観が根強く残り、社会システムや意識の改革が遅々として進まずにいるなか、医大入試において女子だけが一律減点されていたことが明るみになるなど、根深い性差別の状況は一向に改善していないようにも見える。

経済的にも、多くの女性が雇用差別を受け、平均賃金も男性よりずっと低く抑えられてしまっている。新自由主義的風潮がもてはやされ、貧富の差がこれまでになく広がるなか、女性であるがゆえにいっそう追い詰められてしまうケースも多いのではないだろうか。

こうした社会背景を踏まえつつ、現代日本に暮らす女性がどのような課題に直面しているのか。また、それらをどのように乗り越えようとしているのか。市民活動の視点からあらためて概観し、読者それぞれが考えを深めるよすがとしたい。

寄稿

# 「生きづらい」の系譜をたどる ——「女性」について、「語り部」について過去と未来をひもとく

文筆家 栗田隆子 りゅうたかこ



2019年12月28日、  
菊地夏野さんと共にB&B書店(下北沢)にて行われた  
「フェミニズムのさまざまなかたちを、“弱さ”から考える」  
『ぼそぼそ声のフェミニズム』(作品社)刊行記念  
での講演の様子

今回、女性における「生きづらさ」をテーマに語って欲しい、というご依頼を受けました。

人は多かれ少なかれ、いろいろな側面においてマジョリティであつたり、マイノリティであると思います。例えば私自身、在日日本人で異性愛者で、少なくともトイレに行くときに男女どちらに行くかを迷った経験もないという点ではマジョリティです。その点においては、生きづらさを感じてきたとはとても言えません。

他方で自分が不登校をしたり、その後派遣社員から始まる非正規労働を渡り歩き、雇い止めが普通の状態の独身女性であるというその自分の経験、これはおそらく「生きづらい」私の側面ですが、こちらを文章としたことが(一部に)注目され、ある時期にはある女性労働団体の代表になりました。そして生活の困難もそうですが、社会運動の中の矛盾にぶつかるうちに、うつを抱えるように

なってしまうました。しかし、それでもお金になるかならないかとは別な視点で文章は書き続け、コロナ禍によって賃労働の仕事の一つ失い、生活保護や障害年金の福祉制度を使いながらも現在このように書き続けている、そんな生活を送っています。この現実が、人には「生きづらそう」と思われるかもしれませんが、私にとっては「希望」でもあります。とにかく生きていく、そして思うことを書ける。これは私にとってはとても大事なことからです。それを私はこのコロナ禍の中で気づかされました。

## 「自己責任論」 生きづらさを生み出してきた

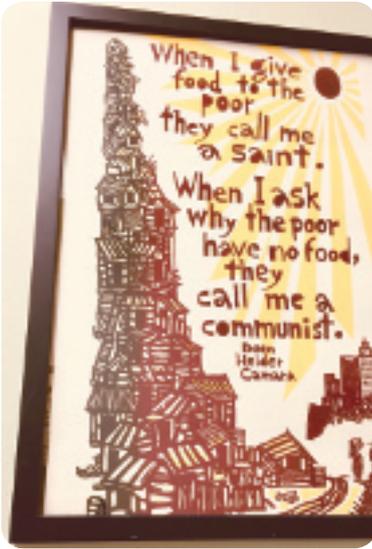
そんな中で、改めて個々の立場で抱えさせられる「生きづらさ」について考えれば、それはある突発的な出来事とか事件によって生まれるも

のとは限らない。むしろ、一見自分の経験とかけ離れているような、過去の社会的な事件や状況なりが折り重なって、現状の「生きづらさ」が生まれていると私は考えます。

とはいえ、この依頼の話を受けた時、私自身はまず「生きづらさ」というこの言葉が現役であることに恐ろしさを覚えました。

というのも、この「生きづらさ」という言葉が現れたのは、2007年 兩宮処凛氏の著作『生きさせろ』<sup>1</sup>が出てきた頃からだと思います。考えてみればもう随分と古い話で、「生きづらい」という社会は結局変わってないのか?と問いたくなるからです。

2007年の時点では、まだ自己責任論を批判する言説があまり見受けられない時代でした。2004年にイラクの武装勢力によって人質となった日本人に対して、小泉純一郎首相(当時)が首相官邸から発行していたメールマガジンにおいて「いか



栗田さんがSIUW (女性労働組合関係者の集まり、2016年)に参加した際、ロサンゼルスIDEPSCA (移民労働者のための労働教育組織)で撮影したタペストリー。

「貧しい人に食べ物を与えると聖者と呼ばれ、なぜ食べ物がないのかを尋ね求めると“コミュニスト”と呼ばれる」社会批判のあり方を問いかけるメッセージだ。

に善意でイラクに行っても、人質にされたらどれほど多くの人に迷惑をかけるかということも考えていた。きたいと思います」と語り、そこから現在の東京都知事の池百合子氏が、当時環境相として「(3人は)無謀ではないか。一般的に危ないといわれている所にあえて行くのは、自分自身の責任の部分が多い」と言い放ちました。このような自己責任論は男性だけの問題でもなく、一部の勝ち残った女性たちの価値観でもありました。派遣会社ザ・アールの元社長奥谷禮子氏が「過労死は自己責任」と発言したのもこの年です。

それとちょうど同じ年に私は『フリーターズフリー』という雑誌で、「非正規で女性のシングルは存在していないこととされている」と書きました。『男女格差』という本<sup>2</sup>もありましたが、男女の格差も残りつつ、さらに能力、体力、気力、見た目、プレゼンテーション能力などあらゆる意味でふるいにかけられ、弾かれる状況。その中で、自分の存在は「ないことになっている」と『フリーターズフリー』という雑誌に書いたのでした。

この「自己責任」という考え方から生じる物心両面のしんどさ、つらさから「生きづらさ」という言葉が

誕生したといえますが、しかしコロナ禍においても、この日本社会において自己責任論が跋扈しているとしたら、「自己責任論」の持つ歪さ<sup>ひび</sup>のみならず、この「変わらなさ」こそ、生きづらさとして様々な形で人々に影響を及ぼしていくように思えてなりません。

英国の現首相のボリス・ジョンソンは、サッチャーの後継者として新自由主義の申し子、市場原理主義を押し通し、移民排斥を謳っておりました。しかし、新型コロナウイルスに感染した彼は自己隔離中に、「コロナウイルス危機が証明してくれたことは、社会というものがまさに存在するということだ (There really is such a thing as society)」と発言しました。そして移民排斥の政策を立てていた彼が、移民の人に看護を受けたことに感謝を伝えました。この「社会というものがまさに存在する」という言葉が何故英国に対して、そして世界に対して(一部の人は今更何をと興醒めしたかもしれません)が(衝撃を与えたのかといえ、かつての英国元首相のサッチャーの下記の発言を受けて発せられたものだからです。以下、サッチャー発言の引用です。

「あまりにも多くの人たちが『もし問題があるなら、それを片付けるのが政府の仕事だ』という理解をしてきたというのが、今のこの時代だと思えます。『俺には問題がある。だから給付金をもらおう』『俺はホームレスだ。だから政府に家をもらおう』。皆が自分の問題を社会に投げつけるのです。しかし、社会というものはありません。個人だけが、男と女だけが、家族だけが存在するのです。政府といてもそれは人々を通してしか何かをできないのであり、その人々はまずは自分を頼りにするのが先決なのです。自分自身の面倒、そして隣人の面倒を見ることが義務なのです。人々は、責任を無視して権利ばかりたくさん主張します。ですが、最初に義務を果たさなければ権利などというものは無いのです」(マーガレット・サッチャー首相、『ウイメンズ・オウン』誌1987年10月31日号)

サッチャーは会社や個人だけが存在しているのであり、政府に頼るなと言いついたのですが、その思想に限界があることがこのコロナでは露呈しています。少なくともボリス・ジョンソンの発言はその限界を認める内容ですが(もちろん今後の彼の動向には注目しなければなりません)

が)、日本は今後、福祉政策拡充に踏み切るのでしょうか。先の自己責任発言で話題になった、小池百合子現都知事も休業補償を行いました。果たして今後、公的扶助を受けることが恥とならない社会は実現するのでしょうか。

**小さな声でも、  
声を出したいのなら出す**

2020年8月29日に安倍晋三氏は首相辞任を表明しましたが、この安倍内閣による一貫性のなかった政策ゆえ事態は二転三転し、数か月前のことすら過去になってしまいう現状です。しかしあえて書き記すとすれば、最初はコロナでの経済対策として和牛券だのお魚券だのを配布すると報道されました。和牛や魚をもらって家賃が払えるか！生きていくのか！と動画やツイッターでも批判されました。その声さえ上がらなければ、今頃どうなっていたでしょう。もちろん特別定額給付金の10万円も他国から比較すればものすごく少ないですし、住民票がない人は給付金を受けられないなど、非常な問題を含んでおります。しかし声を上げればほんのわずかは変わるし、逆に一人一人はそれほど大きな声でなくて

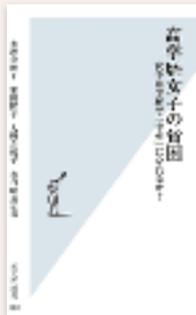
も、集まればそれなりの声になる。それをまず忘れないことは、わずかながらの「希望」かもしれません。

**「生きづらさの系譜」を  
思いかえしてみれば**

さらに、制度や待遇、賃金など外的に生きることのハードルとして立ちただかる「生きづらさ」と、(完璧に外部と切り離せないとしても)内側に住み着いてしまった価値観や心性、モラルといった個人個人の「生きづらさ」の系譜を語ることで、今の生きづらさを解きほぐす鍵となるのではないかと考えます。特に、1980年代から今に至るまでの状況を見直すことで、がんじがらめに縛られている糸を解きほぐせるのではないかと考えます。とはいえ私は社会学や政治学などの専門家ではなく、「生きづらさの系譜学」を行うことは困難です。おそらく幼い頃の私の記憶をも使いながら、その系譜……生きづらさの足取りをたどっていくくらいがせいぜいです。それでも、その足取りをたどることには意味があると思います。

私は義務教育時代を丸々1980年代に過ごした人間ですが、前述したように、この時代は妙に明るく軽

く、「生きづらさ」だの「生きにくい」だのということ、そんなことを思う方が「ダサイ」という時代だったように記憶しています。前述したように国鉄が民営化され、総評(日本労働組合総評議会)が解散し、連合(日本労働組合総連合会)に変わりましたが、大人の世界ではバブル全盛期でとにかく軽佻浮薄がよしとされ、労働組合が潰されることの重みなどはどこ吹く風といった状況でした。他方でその頃の学校の世界はいわゆる校内暴力は徐々に影を潜め、その代わりであるかのように不登校(当時は登校拒否と呼ばれていた)やいじめが生じている時代でした。それこそ「生き地獄になっちゃうよ」と言い残し、少年がいじめによる自殺に追い込まれた、いわゆる「葬式ごっこ事件」が起きたのは1986年ですが、その時代は「生きにくい」などと言ったらそれだけで大人の世界でもいじめや排除が起きたと考えられます。私はその頃、成績だけではなく、容姿、運動能力、人気等々が全て「競争」「努力」して獲得するのを「当然」とする学校の価値観の中で生きてきたように思います。そこには、悲しみや辛ささえ存在してはいけなさと感じさせられたものです。



### 高学歴女子の貧困 女子は学歴で「幸せ」になれるか？

大理奈穂子・栗田隆子・大野左紀子・水月昭道  
(共著) / 2014年 光文社新書

「女は女というだけで貧乏になる」という見出し。女性間の格差も生まれた新自由主義であるが厳然と男女の格差も残り続けている日本社会。その中で「高学歴」の女性も例外でないことをそれぞれの観点で語っている。



### ぼそぼそ声のフェミニズム

栗田隆子 / 2019年 作品社

2007年から2018年にかけて様々な媒体に掲載した文章をまとめ、さらに書き下ろしを加えている。非正規労働者で独身の女性であること、就活、婚活、運動内問題、#MeTooなどの事項に触れた私の足跡のような作品。



### フリーターズフリー 3号

フリーターズフリー編 / 2015年 自費出版

関西を中心とした人々がメインの内容。最後の生田武志氏（野宿者ネットワーク代表）との書簡は私の運動内ハラメントを考える原点でもある。通販で販売中。

<https://ikiruhataraku.booth.pm/items/2040362>



### 「呻き」「対話」「社会運動」

栗田隆子 / 2016年 自費出版

初めて社会運動の話と共に私自身の「キリスト教」の信仰と祈りについて書く。宗教や信仰、祈りについて社会問題と絡めて書いてきたことは一切なかったが、書いたところ意外にも好評。版を重ねている。

<https://ikiruhataraku.booth.pm/items/2040151>

～もっと読んでみたい方へ～ 栗田さんご自身の著作を中心に、4冊の本を選んでいただきました。

#### 社会構造の大きな動きにこそ人は気がつかない

そして、私自身も経験した不登校の子どもは、いわゆる「不良」以上に「不気味」な存在として扱われていました。だからでしょうか、社会問題の中でも「甘えだ」「自己責任だ」「お前が弱い」と言われる「わかりにくい」問題に、私自身はアプローチするようになりました。これほど大きく変わろうとしている日本の構造や

日本に住む人々のメンタリティの変貌を分析できた人は、皆無か、存在していてもほんのわずかな人数で注目されていなかったように思います。それなので、私が言えるのは本当に世界の構造を変えるような大きな動きには人は気がつかない場合が多いということ。ベタ記事で掲載されているようなことが、社会の大きな変容につながる場合もある。それを知るのには大事なことだと思います。

例えば1995年の日経連（現在の経団連）の声明「新時代の『日本の経営』―挑戦すべき方向とその具体策―」労働者を3種に分け、「長期蓄積能力活用型グループ」（これだけは常勤。いわゆる管理職）、そして「高度専門能力活用型グループ」（このグループに、いわゆる大学非常勤講師

などが入り、有期雇用契約）、そして単純作業や、ルーティンワークをする「雇用柔軟型グループ」（有期雇用契約）としました。しかし、この声明が出た95年の段階で大騒ぎした人を寡聞ながら存じ上げていません。

しかし今回のコロナでわかったことは「エッセンシャルワーカー」と呼ばれる職種の大部分はこの「雇用柔軟型グループ」に入るわけですが、これらの仕事も80年代から変わらず基本的に最低賃金ギリギリの賃金設定だということです。SEIUというアメリカのケアワーカーの国際的な労働組合は「私たちの仕事は、ウイリスを相手にし、人々の安全を維持する」という大統領に匹敵する「仕事だ」とツイッターで宣言<sup>3</sup>していますが、まさにそれに値するほどの待遇を実現することこそが必要なのです。

#### 「対話の土壌を作る」という目標と希望

といますか、こういう話をもっとどんどんいろいろな人が語りうる土壌を厚くしていく、そこからスタートをすることが重要でしょう。しかしそれは容易いことではありません。「対話」とか「コミュニケーション」という言葉が流行る昨今ですが、

それは「スキル」という個人の努力の話に収まりません。自由な「対話」や「コミュニケーション」は様々な条件や前提（そもそも差別的なことはおかしいという前提など）、そして相手の話を聞かないなどの態度を禁じる話し方のグラウンドルールや、その積み重ねによる信頼関係こそが、その土壌を作ることになります。その土壌の構築は非常に困難ですが、しかしそこに焦点を当てることこそ、目標であり、また希望になるかもしれません。

さて1990年代に話を戻せば90年代は阪神淡路大震災に集まるボランティアが目立ったことから「ボランティア元年」と呼ばれ、後のNPO法人成立に大きく関わりました。現在ではこのNPO団体の中でも格差があり、不安定な賃金であることも多く組織のトップは男性でその下には多くの女性が勤務しているNPOが多いのも現状です。またその社会運動団体や支援団体の中で、セクハラ・パワハラが横行していることも明らかになっています。さらに90年代後半から「うつは心の風邪」というCMがメジャーとなり、うつを抱える人が増大しました。90年代後半はさらに、不幸をも冷めた視線で分析できるような態度がかっこいい

とされる時代だったように記憶します。うつなどもしんどさよりも、飲んでいる薬を語り合うような文化となっていました。悲しいことを悲しく語れず、いいことをやっている団体が「おかしく」なっていけばそれは生きづらい社会へ直進していくことにつながります。

「生きづらさ」とか「もやもやする」という言葉が、本当にここ10年ほど使われています。言葉にならないしんどさ、わかりやすい感情とならない思いを募らせている人が増大し、あるいは感情が凝固し、それが自傷行為や自殺のみならず、障害者を19人殺害した犯人をも生み出す現実の中で私たちは生きています。……そして、そこにコロナが登場し

ました。

今、私は「語り部」になりたいと思っています。1980年〜2010年代、教科書でも薄くしか取り上げられないこの時代について語ることで今の状況と照らし合わせ、個人であれ、社会であれ、変えるべきことと、変えないほうがよいことを見極めること。それが「生きづらさ」の結び目を解きほぐすことではないでしょうか。

\*1 『生きさせろ！難民化する若者たち』雨宮処凛／2007年 太田出版

\*2 『女性格差』橘木俊詔著／2008年 東洋経済新報社

\*3 <https://twitter.com/SEIU/status/129585423824492544>



栗田隆子（くりた・りゅうこ）

1973年生まれ。大阪大学大学院で哲学を学び、シモーヌ・ヴェイユを研究。その後、非常勤職や派遣社員などのかたわら、女性の貧困問題や労働問題を中心に新聞・雑誌等で発言。2007年から2015年まで雑誌『フリーターズフリー』を編集委員の一員として3号まで出版。

2008年以降、女性の労働・貧困問題に関する複数の団体に参加し、現在は文筆業を中心に活動を行っている。

共著に『1995年―未了の問題圏』（大月書店、2008年）、『フェミニズムはだれのもの？―フリーターズフリー対談集』（人文書院、2010年）、『高学歴女子の貧困―女子は学歴で「幸せ」になれるか？』（光文社新書、2014年）。

# 10代女性が暴力や搾取に行きづかなくてよい社会を

一般社団法人Colabo<sup>コラボ</sup> 代表 仁藤夢乃



女性と話をする仁藤夢乃さん。  
写真提供＝一般社団法人Colabo

「女性の問題」というとき、若い女性たちの問題には光があたりづらいのではないだろうか。現代の日本に暮らす10代の女性たちの現状や課題はどのようなものか、また、それらをどのように乗り越えようとしているのか――。

一般社団法人Colabo代表の仁藤夢乃さんにお話をうかがいました。

## 社会の現状を変えていく仲間として

Colaboでは、困難を抱える女の子たちと出会い、話を聞き、一緒に考え行動しています。具体的には、相談、夜の街でのアウトリーチとして移動バスによる10代向けの夜カフェ(TsubomiCafé)、一時保護(一時シェルター、中長期シェルター)、自立支援シェアハウス、サポートグループTsubomi、

啓発事業などです。

夜カフェは、バスを拠点にテントを張って一緒にご飯を食べたり、コスメや衣類、WiFi、充電などを無料で提供しています。家に帰れず夜の街をさまよっていたり、男性に連れていかれそうになっている女の子に遭遇することはよくあります。この活動は10代のメンバーが中心となって女の子たちに声をかけ、カフェに案内しています。そして、必要に応じて役所、病院、児童相談所などへの同行支援をしたり、Colaboの一時シェルターで過ごしてもらいます。

Tsubomiは、Colaboでつながった女の子たちが主体的に活動し、合宿やお祝いなどを一緒にしたり、児童買春の実態を伝える「私たちは『買われた』展」などの活動を行っています。日本では性搾取の問題が「援助交際」という言葉で語られますが、実態は「援助」ではなくて性暴力・性搾取であり、女の子たち



夜カフェでは食事のほか、衣類やコスメなども無料で提供している。  
写真提供＝一般社団法人Colabo

は学校や家族、地域の大人たちから不適切な対応をされ、頼れる人もなく、そういう選択をせざるを得なかったという背景があります。

「私自身も家が安心して過ごせる場所ではなくて、2005年ころ、夜の街をさまよう生活を送っていました。家に帰れば暴力や暴言が飛び交う状況だった一方、家族を悪く言われたくない気持ちもあり、人に言えませんでした。安心して眠ることもできず、寝坊して遅刻したり授業中に寝てしまい、問題行動とみなされました。誰かに助けを求めることすら思いつかず、夜の街で過ごしていました。声をかけてくる大人は、性搾取の斡旋業者か買春者。毎日何人にも声をかけられ、性的に消費しようとする大人たちの視線を感じながら生きていました。今も夜の街の現状は変わっていません。

私は高校を中退し、その後に行った「農園ゼミ」を通して、一緒に先を見てくれたり、悩んだり怒ったり、笑ったりしてくれる大人たちに出会うことができました。その出会いをきっかけに、自分の抱えている問題が社会の問題だという視点を得ることができました。18歳のときにフィリピンに行き、自分と同年代の女の子を買いにきている日本人をたたく

ん見ました。なぜそんなことが起きているのか、社会のしくみを学ぼうと考え、大学に進学したのですが、大学生は海外の性搾取の問題に関心はあっても日本の現状は知らないし、伝えても自己責任論で返されてしまうことが多くありました。こうした経験もあり、2011年、大学生のときに活動を始めました。

自分の経験と今の活動は地続きのもので、自分が誰かに救われたという感覚はなく、誰かを救えるとか救いたいとも思っていません。私たちは「救うことはできないかもしれないけれど、選択肢を一緒に考えたり一緒に行動することはできるよ」といった伝え方をしています。私たちは支援団体ではなくて、当事者運動です。そして、女の子たちは支援の対象ではなく社会を変えていく仲間だと考えています。出会った大人たちもそういうスタンスで社会活動をしてきた方々で、対等な関係を大切にしてくれていますし、私たちも支援する・される関係にならないように意識しています。

### 活動から見えること

公的機関や児童福祉、教育といった分野で子どもに関わる大人たちが、

本人主体の支援より、自分たちのやり方に当てはめようとするケースが少なくないと感じます。とくに、ハイティーンの子どもの支援は考えられてこなかったと感じます。福祉施設や里親も足りておらず、児童相談所に駆け込んで警備員しかいない追いつめられたということも起きています。行き場がなくて街をさまよい、性搾取にあえば、女の子が責められます。少女に限らず、性暴力に關しては被害者が責められやすい風潮があります。

放置したり、関心を持たない大人たちも加害者の一人だと私たちは考えています。「自分の問題」として関わろうとする大人が少ないことを女の子たちはわかっています、それが社会や自分自身へのあきらめにもつながっています。講演会では「私たちに何ができますか」という質問をよくされますが、海外のシエルトア会議に行くこと「こういうことならできるよう」と提案してくれれます。そういう関係になれるくらい一人ひとりが意識を高め、現状を変えるための一歩を踏み出すことが必要だと考えています。

### 被害者を追いつめない社会を

夜カフェは、韓国の民間団体の実



落ち着いた雰囲気のリビング。  
写真提供＝一般社団法人Colabo

実践を参考にしています。韓国の場合には、女性のみではなく青少年を対象にしている、民間と公的機関7団体ほどが活動をしていますので、毎日どこかにバスがあるという状況です。韓国でも家出が深刻な問題になっていて、繁華街には名前も理由も言わずに入れるシェルターもあります。日本でも選択肢が増えて、一つのところに行きづらくなっても別の場所で過ごせるようになれば、と思います。

夜カフェは、厚生労働省の「若年被害女性等支援モデル事業」に採択されました。Colaboがモデル事業となることで、今動き始めている人たちの弾みになればという想いもあります。

女性差別や性搾取の問題について、女性が声を上げると、「自分自身を感じている違和感を言葉にしてくれた」といったリアクションもある一方で、黙らせようとする人たちからの攻撃が多く、活動への嫌がらせやデマ拡散などの被害もあります。そうした攻撃や誹謗中傷が発生したときに、「あなたが心配」だとか「SNSをやめたら」などと被害者に言うのは、声を上げた人を抑制する行為になります。そして、被害者を追い詰める風潮をつくってしまいます。

悪いのは加害者です。加害者の存在に目を向け、加害させない社会にしていけないといけないと思います。

### 自分自身が孤立しないこと — Colaboからのメッセージ

繰り返しますが、10代の女の子が自己責任論を突きつけられ、性暴力や虐待にあつたことを責められる社会がここにありません。彼女たちは特別な存在ではなくて、日常の暮らしのなかですれ違っているはずで、彼女たちに気づき、その背景を考え、個人として接することをしなかつた、そして社会のありよ

うを放置した自身の加害者性に向き合うのは難しいと思いますが、他人事ではなく自分事として考えていただけたらと思います。

身近に心配な子がいたら手を差し伸べてほしい。もちろん、一人では支えきれないので、社会資源や地域のネットワークにつないでいくことが大切だと思います。それには、自分自身が孤立しないこと。自立とは一人で立つことではなく、頼ったり頼られたりしながら、人々と関わって暮らすことであり、困っているときに助け合うのが当たり前前の社会になるといいと思います。

### 一般社団法人Colabo

<https://colabo-official.net/>



仁藤夢乃 (にとう・ゆめの)

1989年生まれ。中高時代に街をさまよう生活を送った経験から、10代女性を支える活動を行っている。第30期東京都「青少年問題協議会」委員。厚生労働省「困難な問題を抱える女性への支援のあり方に関する検討会」構成員を務めた。主な著書に『難民高校生 - 絶望社会を生き抜く「私たち」のリアル』（英治出版 2013、筑摩書房 2016）、『女子高生の裏社会 - 「関係性の貧困」に生きる少女たち』（光文社新書 2014）。2015年「エイボン女性年度賞」、日経ビジネス「次代を創る100」、文藝春秋「日本を代表する女性120人」、日経ウーマンオブ・ザ・イヤー「若手リーダー部門」、2019年Forbes Under30 Asia 2019 社会起業家部門」など。



多様な年代・性別のメンバーの声をYouTubeでも発信。写真提供＝選択的夫婦別姓・全国陳情アクション

インタビュー

# 夫婦同姓・夫婦別姓が、自分たちで選べる国をめざして

選択的夫婦別姓・全国陳情アクション 事務局長 井田奈穂

「夫の姓にしたが手続きが大変」「職場で旧姓を使っていたら海外出張時にホテル予約名(旧姓)とパスポート名が違うため本人確認で手間だった」「妻の姓に変えたら多くのことから理由を聞かれ苦痛だった」…など、結婚による改姓で、疑問や課題を感じた人は少なくないのではないのでしょうか。なかなか導入されない選択的夫婦別姓を実現したいと立ち上がった団体があります。事務局長の井田奈穂さんにお話を伺いました。

## SNSでのつばやきから全国の人とつながる

——選択的夫婦別姓・全国陳情アクション(以下、陳情アクション)の行動を起こすに至った経緯をお聞かせください。

まず、私の経験からお話しします。

大学1年生のときに出産、結婚をしました。私は姓を変えなくなかったのですが、元夫からは妻の名を名乗るのは恥ずかしい、両方の親からは女性が姓を変えるのが当然だと言われ、井田姓になりました。19年間の結婚生活で違和感はずっとありましたが、離婚した際、元夫の姓を使用する「婚氏統稱」を選びました。私は井田姓で仕事をしてきたし、子どもたちが改姓を望まなかったためです。2017年に現在の夫と再婚し、また改姓しました。事実婚<sup>1</sup>にしなかったのは、夫が手術することになり、合意書に署名ができなかったからです。私が改姓せずに法律婚をするには、今の夫が井田姓を名乗ることになります。それでは両者が生まれ持った姓ではなくなるので、私が改姓しました。改姓による手続きは非常に大変でした。子どもたちは井田姓のまま別戸籍にしました。それでも、奨学金の保証人や保険など、



2020年2月14日衆議院議員会館で開催した超党派勉強会。与野党の代表に向けて法改正要望書を提出。  
写真提供＝選択的夫婦別姓・全国陳情アクション

保護者の名義変更が必要なものが大量にありました。

ツイッターで大変さをつぶやき始めたことを機に、選択的夫婦別姓を実現するには、裁判所か議会に働きかけることが必要と知り、2018年、「選択的夫婦別姓制度を推進する中野杉並の会」として地方議会に陳情を出しました。この経験を通して、多くの地方議会から国会に意見書を送れば実現できると思い、団体を立ち上げました。

——改姓により、どんな不便や不利益があるのでしょうか。

資産を築いていけば、株や投資などすべてに手続きが必要となります。結婚、離婚、再婚により改姓したことを、職場に開示するのに苦痛を味わう人も多くいます。子どもがいる場合はその名義変更もあり、手続きは膨大で煩雑、旧姓使用できると思いきや、二重氏(民法上の姓と呼称上の姓)の運用は周囲にも面倒をかけることがあるなど、さまざまな場面で不便や不利益があります。日本経済新聞の調査によると、選択的夫婦別姓制度に賛成という働く女性は74%、働く未婚女性は65%が旧姓使用を希望<sup>2</sup>。また、改姓による喪失感を抱い

ている専業主婦の方々もいます。

現在、改姓している男性は4%で、国会議員の約9割は男性。「自分ごと」と捉えていない人に、いかに理解していただくかがポイントになると思います。一方で、陳情アクションのメンバーの3割は男性です。人権面や学術面から疑問を感じた研究者、自身が改姓した人、苦痛を感じている妻の元の名前を取り戻したい人などさまざまな男性がいます。他には、ペーパー離婚<sup>3</sup>をしたけれど別姓で今のパートナーと結婚したい、別姓でいいなら結婚するという若いカップルたちもいます。同性同士の結婚を望む人たちも、法的な家族として認められないという同じ悩みを抱えているのでメンバーにいます。私たちは同姓婚を否定してはいません。同姓、別姓を選択できないことを問題としています。損する人はおらず、幸せな人・家庭が増えるのが選択的夫婦別姓だからです。

——若い人の投票率の低さとの因果関係が、陳情アクションのサイトに載っていますが。

高齢の方々時代は夫婦同姓があたりまえでした。キャリアや資産を築く前に結婚した女性が多かったこ

とに加えて、家制度<sup>4</sup>、感覚を持つ方も多いので、選択制であっても60代以上は半数以上が別姓に反対しています<sup>5</sup>。投票する人の都合のいい政治になるわけですから、高齢層の投票率が高く、若年層が低いままではこの問題はなかなか解決しません。若い人たちが声を届けていかないと政治は変わらないと思います。命や生活は、政治に直結します。投票も社会を変える一つの行動になります。

——夫婦同姓は日本だけというのは本当ですか。

はい。1970年代から国連は加盟各国に女性の地位向上を呼びかけ、強制的夫婦同姓の国はすべて法改正しました<sup>6</sup>。唯一従わない日本に対し、国連女性差別撤廃委員会は、何度も民法の改善勧告をしています。夫婦同姓は女性のアイデンティティを奪うもので、男女に同じ選択肢を付与すべき、という理由からです。現在、欧州では非改姓婚が主流です。日本の場合は感情論、家長制観念や女性蔑視、宗教観が法改正を阻んでいると感じます。実は、1996年に法改正のチャンスがありました。法制審議会の答申があったのです。しかし、日本の民法史上

でほぼ唯一、この問題だけが答申後も放置され、もうすぐ四半世紀になります。そして、日本は2019年、ジェンダーギャップが153か国中121位となりました。これは夫婦同姓の問題も大きいと思います。

■足元から社会は変えられる！

——若い人に限らず、政治に声を届けることにためらいを感じる人もいるのでは？

私は、顔も名前も出して活動してはいますが、とくにバッシングや悪影響はありません。実際にやってみると、議員さんはご近所に困りごとを相談するような感覚で会えることがわかると思います。会って説明すると驚くほど多くの議員さんが理解を示してくれるんですよ。なので、これから活動を始める方に向けて「ド素人でも国会を動かせる！『意見書可決』スタートガイド」を毎週開催し、初めて議員さんに会うときの準備や陳情の仕方をお教えしています。各地の地道な活動により、2020年8月時点で131件の意見書が国に送られました。うち52件が私たちが働きかけによるものです。

——市民に対する発信や、各地で活動されている方々へのアプローチはどうされていますか。

現在、選択的夫婦別姓についての都道府県別意識調査の実施を考えています。その結果を、たとえば「いい夫婦の日」である11月22日に報告し、世論に訴え、議会にも届けたいと思っています。市民と議員によるオンライン対話の場もつくっていきたいですね。私は活動する人をサポートする事務方です。「井田さんをサポートしたい」と申し出てくださる方には、「私があなただけを手伝います。あなたが動くんです」とお伝えしています。今年行ったクラウドファンディングで1124人からご支援いただきました。寄付という形で参画くださる方々の存在も、法改正を進める大きな原動力です。

活動している人には組織化を促したり、負荷をかけすぎることはいけません。「できる範囲で」とお伝えしています。一方で、ここぞという好機は逃さずにつかまえることが重要です。大阪府知事が選択的夫婦別姓に前向きなツイートをした翌日に、知事と大阪市長に連絡し、勉強会をさせていただけることになったこともあるからです。こうした機運を読ん

だり、情報収集や発信のためにSNSの活用はおすすめです。

——最後に読者の皆さんへのメッセージをお願いします。

足元から社会を変えることはできると、その力は一人ひとりに備わっていると思います。思いがあれば発信をしてみてください。そして、ジェンダーや夫婦別姓の問題に関心があれば、「#自分の名前で生きる自由」「#選択的夫婦別姓」をつけてSNSで発信したり、陳情アクションのメンバーになってくださればうれい

選択的夫婦別姓・  
全国陳情アクション

<https://chinjyo-action.com/>  
[chinjyoaction@gmail.com](mailto:chinjyoaction@gmail.com)



井田奈穂 (いだ・なほ)  
選択的夫婦別姓・全国陳情アクション 事務局長

奈良生まれ埼玉育ち。IT企業勤務の会社員。Twitterでつながった仲間と、地元・中野区議会で選択的夫婦別姓の導入を求める陳情を提出したことをきっかけに、2018年11月に団体を設立。全国に約200名いるメンバーが自身で各地方議会へ働きかける活動をサポート。これまで52の地方議会から選択的夫婦別姓制度を推進する意見書を国に送った(数字はいずれも2020年8月現在)。

\*1 法律上の手続きを経ることにより成立する婚姻の形態を「法律婚」といい、婚姻届は提出せずに事実上、夫婦関係にある状態を「事実婚」という。

\*2 <https://style.nikkei.com/article/DGMZ05660170W0A220C200000/>

\*3 法律婚から事実婚にするために離婚届を提出すること。離婚して姓を変えるが、夫婦の生活は変わらず、戸籍上のみの離婚のこと。

\*4 1898(明治31)年制定の民法で規定された日本の家族制度。家を単位として、リーダーである戸主が、家族を絶対的な権力で仕切る仕組みのこと。戸主を引き継げるのは原則、長男であった。

\*5 [https://survey.gov-online.go.jp/h29/h29\\_kazoku/zh/216.html](https://survey.gov-online.go.jp/h29/h29_kazoku/zh/216.html)

\*6 [https://note.com/chinjyo\\_action/n/96d7388b357f](https://note.com/chinjyo_action/n/96d7388b357f)

# あすマネ

明日からすぐにマネ(真似・マネジメント)できる!

このコーナーは、TVACに寄せられた相談をもとに、市民活動やNPOの運営にまつわるヒントを紹介しています。

\* 本日のご相談 \*

## 団体の紹介文を見直したい! ～ 団体紹介文ってどんなことを書いて、 何を意識したらいいの?～

活動を始めて3年たちました。立ち上げのときに自分たちの思いをたくさん詰め込んだ団体紹介文をつくりました。パンフレットに載せていますが、寄付者、ボランティア希望者には、なぜか不評です。「どんな活動をしているのですか?」という問い合わせも少なくなく、「知りたい情報が載っていない」と言われます。

団体紹介文をつくり直すにはどうしたらいいのでしょうか。

みなさんは自己紹介が得意ですか。氏名を名乗り、自分はこんなことに関心がある、こんなことができるなど、短い時間で自分を適切に表現し、印象づけるのは難しいことです。よほど慣れていないか、事前に自分について考えておかないと、適切に伝えることは難しいと思います。

団体の紹介も同じではないでしょうか。

ご相談のように、NPO・市民活動グループはさまざまな場面で、紹介が欠かせません。例えば、ボランティア希望者に向けて、助成金の申請、寄付のお願い、プレスリリースなど。

今回は、団体の紹介文の作り方についてご紹介します。

### ● 紹介文ってなあに?

紹介文は「相手に団体を知ってもらうための文章」です。

そして、NPOの紹介文は、単に知ってもらうためだけではありません。文章を読んだ相手に団体を理解してもらい、参加を促し、協力を得るためのきっかけづくりとも言えます。紹介文は、団体を通じて、社会課題に関心をもってもらい、社会を支える人を増やす大切なメッセージ

です。

つまりNPOの紹介文は、紹介文を読んだ相手に「知ってもらう」+「応援してもらう」+「参加・協力してもらう」動機となりうるようなメッセージ性のある文章で、読み手に「私の力が必要なんだ」と思ってもらう目的をもっているのです。ですから団体が伝えたいことではなく、読んでくれる人が知りたい情報で具体的な内容を文章にしていくことが大切です。

400文字程度の紹介文を一度くくつてしまえば、いろいろな場面で使うことができ、とても便利です。締め切りが近い助成金を見つけたときも、申請用紙の団体基本情報をすぐに埋めることができます。紹介文を完成させるまでには、時間や労力がかかりますが、急がば回れで、団体内外の人といろいろ話し合っ団体紹介文をつくってみてください。

### ● 紹介文の材料

東京ボランティア・市民活動センター(以下、TVAC)では、多様なNPOからの広報物を掲示・配架しています。そうした団体の紹介文は実に色とりどりで、媒体にもよりますが、多くの場合、その文字数

は20〜400文字ぐらいです。

その内容は、次の①〜⑩です。

- ① 団体名
- ② 設立の時期
- ③ 設立の経緯
- ④ 団体にかかわっているメンバー
- ⑤ 対象
- ⑥ 社会課題（背景・現状・課題）
- ⑦ 目的
- ⑧ 目指す社会（もの）
- ⑨ 活動（実績や取り組み）
- ⑩ 団体が伝えたいこと

①〜④は団体の組織にかかわる内容で、⑤〜⑩は団体の使命や存在意義（何のための団体なのか）にかかわる内容です。

400文字程度で書かれている紹介文では、⑦〜⑨の目指すもの、目的、活動に文字数を割いています。社会課題や構成員について、具体的な数字を挙げている団体もあれば、団体の雰囲気や「おかえり！」「実家のような」「のびのび」などの表現で伝えている紹介文もあります。それでは、読んでくれる人はどんなことが知りたいか、先に挙げた①〜⑩を軸に具体的に考えてみましょう。ちなみに聞き手が聞きやすいスピードで話すと、1分間300〜

350文字程度だそうです。

## ● 読み手が知りたい情報を意識する

### 意識する

時々、こんな紹介文を目にします。

「私たちはボランティア団体ナポリタンです。2018年4月1日設立。犬が大好きです。犬と飼い主のために楽しいイベントや交流会をお届けする団体です。なぜ団体名がナポリタンかというと、懐かしくておいしい、ナポリタンのようにみんなに愛されたいからです」

この紹介文からは、団体の「いろいろな人に愛される団体になりたい」という気持ちが伝わってきます。そして、設立時期と抽象的な活動内容がわかります。しかし、団体の核になる部分⑥〜⑨の社会課題や目的、目指す社会や具体的な活動がわかりにくいのです。

また、団体が伝えたいことばかりで、読んでくれる人が知りたい情報が不足しています。知りたい情報が不十分だと、団体への興味が深まらず、応援者もなかなか増えません。パンフレットを手にとった人、ボランティア希望の人、寄付先を探している人、助成金の審査委員は、団体のどんなことが知りたいか想像力を働かせることが大切です。

働かせることが大切です。

TVACで団体の広報を手にとっている人にお声がけをすると、「この団体はサロンをしていると書いてありますが、誰でも入れるんですか」「学習支援は進学的ですか。対象はどんな人たちですか」と自分がそのNPOの対象となっているか、具体的にどんな活動があつて自分にとって有用かを判断できる情報について質問を受けます。

また、ボランティア希望者の多くは「どんな人たちが活動をしているのか」「自分と同じ年代の人が活動しているか」「自分と年代の人が活動しているか」など、団体の雰囲気が気になるようです。

寄付先を探している人は「どんな人を対象に具体的に何をして、どのぐらいの成果が出ているのか」「何年ぐらい活動しているのか」と成果と継続性について尋ねます。

助成金の審査では、「社会にどれぐらい必要とされている活動なのか」、その活動の波及効果や緊急性などが審査のポイントになります。

これらの要素をまとめると、読んでくれる人は、この団体に社会性があるか、自分にとって有用か、自分が共感できる何かがあるか、または

共通項があるかを知りたいのだと思います。

読んでくれる人が知りたい情報を伝えられると、次のアクション、例えば、ホームページをみる、活動先のサロンに行ってみる、ボランティアの問い合わせをする、寄付するなどの参加の一步を踏み出してくれる可能性が高くなります。行動を促す意味で、読んでくれる人が知りたい情報を意識して紹介文をつくることは重要なのです。

## ● 材料について考える

ここからは、紹介文の具体的な項目とつくり方をみていきます。

まずは、紹介文の核になる団体の存在意義にかかわる内容について考えていきます。ここは読んでくれる人の共感につながる部分です。

⑦〜⑩の「目的や理想の社会、目指す社会（もの）のためにしている具体的な活動」です。

この団体は「どんな課題意識をもって、どうして、この活動をしているのだろうか」「この活動で社会がどう変わるのだろうか」という問いに答える内容を書きます。

次に⑤⑥の対象や活動の背景。「団体が向き合う社会の中に、どのぐらい困っている人がいて、どの

ように困っている状況があるのか」について具体的な数字を入れることで、根拠をもって伝えることができます。数字があることによって問題の深刻さをよりリアルに感じることができます。

最後に①～④の組織についてです。

ここは、共通項を見つけてるきっかけになる項目だと思います。団体名、設立に関するストーリー、メンバーの構成について、伝えることで興味をもってもらう部分です。例えば、好きな人は団体名に「犬」と入っていれば「知りたい」「何かしらの共通項がありそう」と思うでしょうし、「犬にかかわるどんなストーリーがあるのだろうか」と興味をもつはず（団体名を変えることは簡単ではありませんが、活動内容がわかる団体名になっていることは、やはり大切なことですね）。

他にも、「学生を中心に10～6代の約50人が参加している」「自然が大好きな30代の会社員5人が始めた」など、どんな人たちがいるのかなどを具体的に伝えることで、共通項が見出しやすくなります。

そして、この活動に共感できるポイントがあるか、自分が力を貸す必要があるか判断できる内容になっていることが必要です。

## ●いろいろな人に材料をもらう

紹介文の具体的なつくり方です。

まずは、団体のメンバーと日ごろおつき合いのある外部の人に、④～⑨について「具体的に、一言で言うなら」とメモをたくさん書いてもらいます。つくったメモを出し合い、重複を省き、つなぎ合わせて文章にします。できあがった文章は団体の趣旨書のような文章になっていると思います。そして、その文章が、読んでくれる人が知りたい情報になっているか否かの視点でそぎ落とし、言葉を選んでいきます。読んでくれる人が知りたい情報をすべて（ボランティア募集について、寄付の用途や効果など）盛り込むと、かなりの分量になってしまいますから、どんな希望をもっている人に届けたいかを絞り、その人たちに届く言葉、文章を取捨選択します。

専門用語は使わず、使わなければならないときは、注釈などを入れ、補足をして、誰が読んでも、わかりやすく簡潔な文章に整えます。

一旦、整えたら、最終確認として、次の7つの視点で文章を確認してみましょう。

□読んでくれる人が知りたい情報を意識した

□設立から現在までの時系列に文章を組み立てた

□活動が具体的に示されている

□設立経緯や社会課題、活動にながりがある

□根拠となる数字が入っている

□文章が簡潔

□平易な言葉つかい（専門用語は×）

できあがった文章もいろいろな人に読んでもらい、修正を繰り返してください。⑩の「団体が伝えたいこと」が文章に入っているかも確認しましょう。NPOはいろいろな人の参加によって、組織が強くなっていくます。身近な人にどんどん協力を呼び掛けましょう。

## ●見せ方を工夫しよう

紹介文は、いろいろな広報物に活用されるため、視覚的に「きれい」で「読みやすい」ことも大切です。

ここでは、書体について少しご紹介します。

紹介文をつくるときに、たくさん書体を使うと視覚的にごちゃごちゃした印象を与えてしまいます。書体は少なく1～2種類がいいと思

います。

次に挙げるのは、文章を書く際によく使われる3つの書体です。

### ●メイリオ

少し丸みを帯びた、柔らかい印象の書体です。特徴は、やや横幅が広く、大きめ、太さが均等であるので資料や印刷物で使用したときに「読みやすい」印象を与えます。小さなスペースでも読みやすい書体です。

### ●明朝体

縦横の線の幅が異なり、筆で描いたような文字です。そのため、フォーマルな印象を与えます。相手に対して丁寧に知らせたいこと、例えば、お願い事、重要なお知らせ、お詫びなどの場合に用いることが多い書体です。一方、堅苦しい印象を与える場合もあります。

### ●ゴシック

縦横の線の幅が均一で、どっしりした印象の書体です。文字書体が太くなるほど、安定感や力強い印象になります。細くなるとゴシック体の丸みを帯びた柔らかい印象になるので、優しく親近感を感じられる書体です。見出しや写真説明に向いています。

もちろん、手書きの文字も味わいがあり、団体の個性や雰囲気伝わるいい方法だと思いますから、いろいろと試してみてください。

## ● 紹介文を考えてみよう

架空の団体の紹介文です。

「神楽坂ドッグランサポーターズは、公園や道に犬の落とし物（糞）が多いことで、人や犬が気持ちよくなるのびと遊べない、街を嫌になっってしまうおそれや、感染症のリスクを心配した20〜60代の愛犬家8人が2009年に設立。人と犬が共生し、それぞれの命が大切に扱われる社会を目指しています。飼い主のマナー向上とドッグラン（犬が引き綱なしに自由に走り回れる場所）や公園が、人にとっても犬にとっても快適な場所となるよう、地域のひと協力して運営・維持管理するボランティア団体です。メンバーは、ごく普通の犬の飼い主や犬を飼っていないが犬が楽しく遊ぶ場所や散歩道の維持に協力したいと参加している30〜70代の30名。活動は1時間からできるドッグラン、公園、道路のゴミや排泄物の清掃、柵や扉の故障箇所の点検、草刈りや穴埋めなどの環境

## 2つの団体紹介文の違いを見てみよう 読んでくれる人が知りたい情報は十分かな？

	ナポリタンの場合	神楽坂ドッグランサポーターズの場合
①団体名	ボランティア団体ナポリタン	神楽坂ドッグランサポーターズ
②設立の時期	2018年4月1日に設立	2009年に設立
③設立の経緯		20〜60代の愛犬家8人が公園や道に犬の落とし物（糞）が多いことで起こる問題を心配した
④団体にかかわっているメンバー		メンバーは、ごく普通の犬の飼い主や、犬を飼っていないが犬が楽しく遊ぶ場所や散歩道の維持に協力したいと参加されている30〜70代の30名
⑤対象	犬と飼い主のため	人にとっても犬にとっても
⑥社会課題（背景・現状・課題）		公園や道に犬の落とし物（糞）が多い 人や犬が気持ちよくなるのびと遊べない、街を嫌になっってしまう、感染症のリスク
⑦目的		飼い主のマナー向上と、ドッグラン（犬が引き綱なしに自由に走り回れる場所）、公園が、人にとっても犬にとっても快適な場所となるように、地域のひと協力して運営・維持管理する
⑧目指す社会（もの）		人と犬が共生し それぞれの命が大切に扱われる社会
⑨活動（実績や取り組み）	犬と飼い主のために楽しいイベントや交流会をお届けする	活動は、メンバーが空いている1時間からできるドッグラン、公園、道路のゴミや排泄物の清掃、柵や扉の故障箇所の点検、草刈りや簡易的な穴埋めなどの環境整備、しつけ教室開催、ホームページ、チラシ配布を通じてのマナーアップ向上の啓発活動
⑩団体が伝えたいこと	犬が大好き なぜナポリタンという団体名かというと、懐かしくておいしい、ナポリタンのようにみんなに愛されたいから	ドッグラン、公園などが、人にとっても犬にとっても快適な場所になってほしい 人や犬が気持ちよくなるのびと遊べて、街を好きになる、感染症のリスクが少ない地域にしたい 人と犬が共生し、それぞれの命が大切に扱われる社会を目指している

整備、しつけ教室の開催、ホームページ、チラシ配布を通じてのマナー向上の啓発活動です」（団体名含む394文字）  
①〜⑩の項目や7つの視点を意識しながら、書きました。特にボランティア希望者に届いてほしいと思

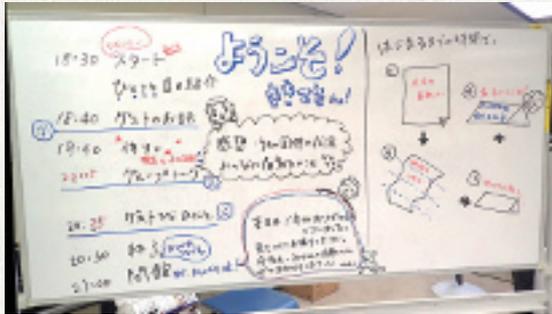
要な時間の情報を厚くしました。  
この紹介文を考えるのにかなりの時間を要しましたが、みなさんもぜひ団体の内外の方々と楽しくコミュニケーションをとりながら紹介文をつくってみてください。

● 最初の一步  
ご相談のあった団体では、まずは団体内外の人に「一言メモ」をつくってもらおうようお願いし、メモを読みなさん集めて文章をつくる会議を始めるそうです。  
（安井忍 相談担当）

ききマネ講座 これからのボランティア活動を考える  
 ～新しい課題と工夫～ (7月28日)

新型コロナウイルス影響下で、さまざまな取り組みをしている団体の事例をヒントに、これからのボランティア活動について考える講座を開催しました。

当日は、会場とオンラインあわせて17名が参加し、事例報告として、認定NPO法人スマイリングホスピタルジャパンの松本恵里さん、岡さんのいえTOMMOの小池良実さん、認定NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会の後藤麻理子さんに登壇いただきました。それぞれ、デジタル教材や動画



ききマネ講座の様子。  
 (上)居やすい雰囲気になるよう、ボードは手書きにした。  
 (下)当日は感染予防のため、換気や消毒、机といすの間隔に配慮した。オンラインもあわせて17名が参加。

画の配信、新たな形での地域の協力を獲得、全国のNPOとオンラインによる交流やネットワーキングなどのお話がありました。

その後は、グループに分かれて、それぞれの団体の課題や工夫、今後の活動について共有しました。参加者の方々からの感想を一部ご紹介します。

・まったく違う分野でも共感し共有できることが多く、大きな収穫がありました。  
 ・つながりを切らないアイデアに

気づくことができました。  
 ・事例報告の「対面で密で行うことが活動の基本である、ということ」初心は忘れない「場所を閉じたことで、開かれた場の必要性が改めてわかった」オンライン会

議により参加者が増えた一方、ITが使えなかったり音が届かない人もいることを実感した」といったコメントや、その後の意見交換で背中を押していただけのように思います。

地域の居場所の衛生管理を確認しよう  
 ～新型コロナウイルス感染症対策  
 オンライン勉強会～ (9月15日)

さまざまな人が訪れ交流する

当日は45人が参加されました。

「地域の居場所」にかかわっている人びとを対象に、衛生管理についての勉強会をTVACと薬粧連合(医薬化粧品産業労働組合連合会)で開催しました。薬粧連合とは、医薬・化粧品産業の労働組合が集まった団体で、2018年に設立、2020年4月現在、19組織、約3万人の組合員が加盟しています。

アンケートでは、「前半のわかりやすい解説と、後半のグループワークでは実例をもとにコロナ対策について話し合え、勉強になった」「事前の疑問が解決した。また、意見交換する中で新たな気づきがあり、小さな対策の積み重ねによってバリアを厚くしていくということを確認できてよかった」「薬粧連合の存在や活動を知れたことは有意義だった」などの感想が寄せられました。

前半は薬粧連合のメンバーが講師となり、手洗いや手指の消毒、室内や物品の衛生管理など、「居場所における衛生管理の基本」についてお話ししました。  
 そして、後半のグループワークでは、居場所の事例をもとに、見落としがちな感染リスクについて意見を出し合いました。

また、「グループワークや講義はもう少し時間をかけ、深掘りしてほしい」「食事の用意のシーンがあったが、食品衛生的な観点からの感染症対策についても知りたかった」といった、次回を期待するコメントもいただきました。



\*当センタースタッフによる本のコラム

## あがり症克服

あがり症であったがゆえに、大勢の前に立つことはできるだけ避けて生きてきた。しかし、人生には、どうしても避けては通れない場面が出てくるものだ。小学校の朝の5分間スピーチ、中学校の弁論大会、大学の教育実習、職場での自己紹介や挨拶、会議で求められる発言……。

何とか人前で話せるようになれないか、とひとり思い悩んできた。できる手立ては試してきた。深呼吸、手のひらに人、みんなジャガイモだと思え、などなど。

ある本に、「自分のことを良く見せようと思っから緊張するのだ」と書いてあって、自分はなん

とあさましい人間だったのか、とショックを受けた。しかし、時間が経つにつれて冷静になり、そもそも無意識で思っていること（よく見せようと思っしたこと）は一度もない。そんな余裕すらない（を）、やめようと思っつてやめられるものなのか、とモヤモヤと思っつていた。その時に出会ったのが、『一対一でも、大勢でも人前であがらずに話す技法』だった。

著者は、あがり症だったが、今ではさまざまところで講演をしているという方で、あがり症を克服するための考え方とトレーニング法がまとめられている。

この本で述べられているいくつかの考え方のなかに、「自分のことしか考えていないから緊張する」というのがある。「自分を良く見せようと思っから緊張する」と、似ているよつだが、より本質に迫った言葉ではないかと思っつ。『緊張しないかな』『ふるえたら嫌だな』など、自分のことはかり考えているから緊張してしまっつ。そつではなく、聞く人に少しでも役立つ情報を伝えよう、少しでもハッピーになれる話をしよう、と相手に意識を向けるこつで自す

緊張しなくなるこつ。たしかに、いつも自分のこつでいっばいで、聞く人への思いに欠けていたなと思っつ至った。

こつで、この度の新型コロナウィルスの影響で、オンラインでの会議や研修が増えた。画面越しで向き合う人は、なんだか遠くに感じられて、そのためいつもより緊張せずに話せる気がする。オンラインもあがり症克服に活用できるのではないかと思っつた。

最後に、これはぜひやってみようと思っつた本の言葉を紹介したい。それは、「あがり症を過去形で話ること」。「人前に出るとこつも緊張してしまっつ……」と話すこつで、自らに暗示をかけてしまっつて、いつも緊張する人になっつていく。また、まわりの人もそのよつな人として接するよつになる。それによつて、ますます緊張する人になっつてしまっつというのだ。「昔はあがり症だった」「あ、そんなこつもあつたねえ」と話すこつで、「今は違っつ」という暗示が入っつていき、あがり症克服になっつるよつという。わたしもこの記事でそつと実践してみたが、さて、効果はいかに。

(Wakabi)



『一対一でも、大勢でも人前であがらずに話す技法』  
森下裕道著／大和書房／ISBN978-4-479-79326-7



セルフヘルプグループとは、共通の悩み、問題を抱える人やその家族が自発的に活動を行う集まりのことです。このコーナーでは、セルフヘルプグループの思いや活動内容を紹介し、社会の認識を深めたり、他のグループの運営のヒントとなることをめざします。

## 「子どもという同じ立場で」

### 第24回

## 精神疾患の親をもつ子どもの会 こどもぴあ

統合失調症やうつ病、依存症、気分障害など、精神疾患のある親をもつ子どもの会「こどもぴあ」代表の坂本拓さんにお話をうかがいました。

### はじまりの物語 ～母親がリストカットした夜～

中学2年生の時、夜中に階下で騒ぎがあり、何事か見に行くと、母と母の当時の再婚相手だった義理の父が口論しており、母が手首から血を流していました。それが私にとつての「はじまり」でした。なぜそのような事態になったのか、親からは何も説明されませんでした。それを機に、元気で力強かった母は、次第に笑顔がなくなり、仕事にも行かなくなり、家で寝ていることが増えていきました。その時の私には、それが精神疾患の影響なのだという認識はありませんでした。

高校2年生の時に初めて母がうつ病とパニック障害を患い、精神科のクリニックに通院していることがわかりました。既に、そんな母に寄り添い、ひたすら話を聴く日々が続いていました。高校時代にネットで目にする精神疾患に関する情報は、私の心配を掻き立てるものが多く、母がまた自傷行為をしないか怖くなって、目が離せなくなっていました。発症前の母は、若くして姉や自分を生んで、ダブルワークで仕事も子育ても頑張ってきたような人だったので、そのギャップは大きかったです。

す。今度は自分が母を守る番だと一生懸命面倒をみていたものの、「自分の人生は一体何なのか？」と自問してしまうつらさもありません。本来であれば親から庇護されるべき関係が逆転し、親のお世話役を余儀なくされた私は、子ども時代に適切な親子関係が築けないことから生じる、いわゆる「アダルトチルドレン」の状態になっていました。自分の存在、アイデンティティに悩み、親子の関係性に大きな疑問を抱くようになり、抱えたまま今に至っています。私は20代後半ですが、自分の人生を歩みだしたと感ぜられるようになったのは、つい最近のことですね。

### 親から離れて 自分自身のやり直しを

就職して1年ほどたった時、母から離れて1人で生活することを選びました。このタイミングを逃せば、これからの人生で自分の自由はなく

なってしまうような、何も選択できなくなるような怖さがあったからです。実に何年ぶりかで、自分の希望を親に伝えた瞬間でした。母と離れて暮らすことには、無論、葛藤もありました。自分の選択が人に責められるようなものではないとわかっている、気持ちも追いつきませんでした。こんなふうな人に話せるようになったのは、この数年のことです。しかし、母と離れて暮らしても、それまで問題が解決するわけではなく、これまでの経験から、今でも人との関係性に思い悩みます。傷つきたくないから、親しくなった人との関係を自らリセットしてしまうこともあります。客観的に見れば自己肯定感の再構築とやり直しが必要なのでしょうが、何から手をつけていいのかわからないのが正直なところです。

### 子どもという同じ立場の グループが誕生

数年前、精神保健や家族支援の研究者の方たちが開催した、精神疾患のある子をもつ親たちの家族会に参加したことをきっかけに、精神疾患のある親をもつ子どもたちの集まりがもたれるようになりました。その後、家族による学習会が続けて開かれるようになり、私自身もそこに参加しました。当初は福祉分野で働いていることもあり、こうした問題への自己認識もできていると思っていたのですが、いざ話そうとすると、

自分の体験やその時の思いを言語化して人に伝えることができない自分に気づきました。あらためて、自分に向き合うことが足りていなかったのだと知ったのです。そんなこともあって、積極的に家族学習会に参加するようになりました。そこで同じ立場の仲間がで、その集まりをもっと広げていくために、名前をつけることになり、2018年1月に現在の会の名称になりました。

### 「自分も大人になれるんだ」

こどもぴあは、出会いの場としての「つどい」と経験・体験、思いを共有する場である「家族学習会」、そして「広報・啓発」が活動の3本柱です。そのうち家族学習会に大阪から参加があり、支援者である研究者の方が大阪にいらることもあつて、こどもぴあ大阪が立ち上がりました。その後、札幌や福岡でもこども



2018年1月のこどもぴあ発足の様子

ぴあが誕生し、沖縄でも立ち上げの動きがあり、全国に広がっています。つどいや家族学習会に参加する人の親の状況は、「統合失調症」「気分障害」「依存症」「発達障害」「パーソナリティ障害」など様々です。中には親が未受診・未診断の人もいますが、子ども本人が親との関係で悩み、違和感を抱えているのであれば参加OKです。参加者の年齢は10〜60代と幅広いのですが、経験や抱えてきた思いを共有するのに本当に年齢は関係ないと感じます。若い参加者であれば、年上の人を見ることが、「自分も大人になれるんだ」「親と離れて、自分の人生を始められるんだ」「私も結婚できるんだ」「つらくなったら、またここに来ればいいんだ」など、自分のこれからの可能性を感じられるような場になつていけるのではないのでしょうか。

### 大変な状況で育った子どもたちの存在を知ってほしい

参加者によっては、例えば風呂には毎日入るものなのかどうか知らずに育ったり、歯磨きの習慣を教わらずに育った人もたくさんいます。無論、疾患や障害を抱えた親が悪いのではなく、適切な支援や周りにサポートがいればなんとかなるのですが、偏見や社会のありよう、支援サービスイブの不足など、様々な要因が絡み合った結果、大変な状況で育った子どもたちがいるわけです。

こうしたいわば「壮絶な体験」をしてきた人がいることを多くの人に知ってほしいと思います。一方で、当事者にはその体験を社会に伝えてほしいのですが、そうした人ほど、思い出す作業がよりしんどくて苦しいため、なかなか語ることができないという現実もあります。

リアルタイムで今、子ども時代を過ごしている、自ら助けを求められないような仲間たちをどうやって救っていきけるのか。つらい状況にある子どもの世帯に直接介入することは非常に困難ですが、ラジオや新聞などのメディアの取材や、教員啓発用のDVDやYouTubeの作成、書籍を出すなど思いつく限りの発信を続けています。活動していく上では大変なこともたくさんありますが、私のライフワークだと思っています。

佐藤新哉（編集部）  
森玲子（相談担当）



7月に開催した「第一回オンラインつどい」の様子

## 精神疾患の親をもつ子どもの会 こどもぴあ

**キーワード** 精神疾患のある親に育てられた子ども

精神疾患のある親に育てられた子ども同士による当事者会。2018年から現在の名称で活動。子どもの立場が抱える様々な困難や体験を当事者間で共有し、そうした子どもたちがいることを社会に広く発信することを目的に活動している。「こどもぴあ」の「ぴあ」は、こどもの立場にとって居心地のよいところ「ユートピア」と、子どもの立場の仲間「ピア」によるピアサポートを意味している。みんななっと（公益社団法人全国精神保健福祉社会連合会）所属。



<https://ja-jp.facebook.com/kodomopeer/>

<https://twitter.com/kodomopeer>

**メンバー** 精神疾患のある親に育てられた子ども（親が未受診・未診断の人も含む）

**活動内容** つどい、家族学習会の開催。マスコミや書籍、インターネットによる情報発信。

**活動エリア** 東京 **相談** あり **集まれる場** あり **連絡先** <https://kodomoff.amebaownd.com/>

# 読者の声

～本誌367号より～

読者の皆さんからいただいたアンケートの一部をご紹介します。

## ◆特集：ソーシャル・ディスタンスとボランティア・市民活動

・新型コロナウイルス影響下で人と人のつながりが失われそうになっていることは、市民活動団体の方々はつらいし、大変だろうと思います。が、それでも、人とのつながりを大切に感じたり、ポジティブな面に気持ちを持っていつているのがわかりました。

・奥田知志さんの「闇にとどまるべき」という言葉が深く沁みました。ボランティアも市民活動も、実際には地味な毎日のくりかえしで決してあせってはいけません。光を求めて前進するのではなく闇の中で光をともっていくのだというふうにとらえませんでした。「貧すれば考え、出会っ」も、現場を知る人ならではの希望の見方だなと感銘を受けました。

## ◆TVAC相談窓口から

・活動をしているとさまざまな問題が起きるけれど、ボランティア・市民活動に関わる人びとが相談できる窓口があるということが、まずとても重要だと思えます。

・相談件数の多さに驚きました。専門

知識が必要な法人に関する内容から個人的な「さみしいから」まで、多岐にわたっているですね。

## ◆思い立ったがバラ日…楽譜点訳の会「星」

・個人的に興味を持っていたボランティア活動だったので、楽しく読みました。

・全て手作業で、間違えたら最初からやり直しとは！根気も根性も必要で、ハードルが高いボランティア活動だと思ったら、次のページで、今はパソコンソフトでも作成でき、修正が簡単にできるとの記事が。こういうソフトがどんどん開発されるとよいですね。

## ◆いいものみいっつけた！…イタール成城

・自由で独創的で作っても楽しそうだし、見ていて欲しくなる作品です。実用的な物が多くてデザインもいいと思えました。

・おしゃれですね！ゴミ箱と台紙を使った手法、どうやって思いついたんだろう…。商品づくりについて、じっくり読み物としてあってもおもしろいかなと思いました。

## 東京ボランティア・市民活動センター

(TVAC: Tokyo Voluntary Action Center)

<http://www.tvac.or.jp>

東京ボランティア・市民活動センターは、ボランティア活動をはじめとするさまざまな市民の活動を推進・支援しています。どうぞご利用ください。

**利用** \*ご利用人数はホームページでご確認ください。

会議室 会議室A・B(各40人)・C(15人) 無料  
※会議室AB通し(80人)  
貸出機材 印刷機(2台)紙持ち込み、点字プリンター 他  
申込み 4ヶ月前から電話で受付(03-3235-1171)

### 情報提供

最新のボランティア・市民活動情報は、センターのホームページでご覧いただけます。 <http://www.tvac.or.jp/>

### 開所時間

火曜日～土曜日: 9時～21時 / 日曜日: 9時～17時  
(月・祝祭日・年末年始除く)

### 交通アクセス

JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線 出口B2b)  
飯田橋駅下車

## ネットワーク

は、  
ボランティア・市民活動を広げ、  
応援する情報誌です!

【次回予告】2020年11月下旬発行予定

### 特集 いのちを考える(仮題)

発行人 山崎美貴子

編集委員 五十嵐美奈(興望館)  
上杉貴雅(オレンジフラッグ)  
江尻京子(東京・多摩リサイクル市民連邦)  
齋藤啓子(武蔵野美術大学 造形学部教授)  
社会学ゼミ(TDU-豊栄大学)  
中原美香(NPOリスク・マネジメント・オフィス)  
まつばらけい(フリーライター)  
渡戸一郎(明星大学名誉教授)

編集・発行: 東京ボランティア・市民活動センター  
〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1  
セントラルプラザ10階  
TEL: 03-3235-1171 FAX: 03-3235-0050  
E-mail: [nw@tvac.or.jp](mailto:nw@tvac.or.jp)

印刷: (株)丸井工文社

デザイン: 東京ボランティア・市民活動センター / (株)丸井工文社  
表紙イラスト: フローラル信子

2020年9月20日発行(通巻No.368)

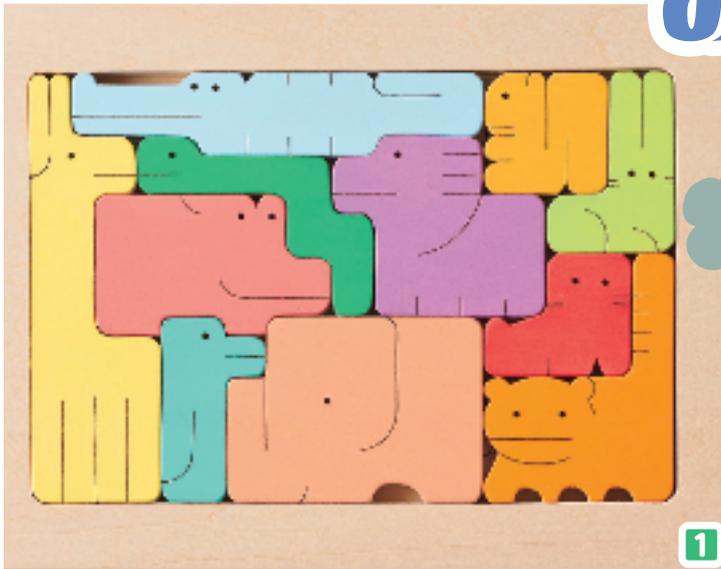
ISBN 978-4-909393-23-4 C2036

371円+税

本誌掲載記事の無断複製・転載を禁じます。



# いいもの みい〜つけた!



1

このコーナーでは、ボランティア・市民活動・福祉施設のグッズや作品を紹介します。

Vol.  
27

## 社会福祉法人 桂会 あしたば作業所

1983年、失語症の女性の方の日常活動の場所として、小平市に身体障害者通所授産施設、あしたば作業所は誕生しました。当時、集団で指を使つての物づくりがりはビビりに良いとされたことから、木工パズル、組木の製作販売をしています。

2001年に社会福祉法人となり、障害種別を問わない利用が可能となりました。身体、知的、精神障害の方、年齢も20代から80代まで、様々な方が利用されています。製品は多摩動物公園、KURUMIRU\*3店舗や地方のホテル売店、ネットなどで販売されています。

物作りは出来上がった時に達成感があり、その商品が売られていくのは、利用者さんのやりがいとなります。また販売を通じて、障害への理解を深める活動と思っています。手づくりパズルと組木、木のぬくもりを感じて頂けたら幸いです。

※東京都による障害者福祉施設の自主製品販売ショップ

## 社会福祉法人 桂会 あしたば作業所

所在地 〒187-0011 東京都小平市鈴木町 2-187-3

TEL 042-467-8071 FAX 042-467-8112

E-mail [ashitaba@mse.biglobe.ne.jp](mailto:ashitaba@mse.biglobe.ne.jp)

HP <https://ashitaba.or.jp/>



2

1 動物をはめ込んだり並べたり、積み上げたりいろいろ楽しめる人気商品!

2 おさるの手と尻尾をつなげて文字遊び、また伝言版やオブジェにも!

3 麻痺のある方が自助具もなくカットしています。ヨ!職人技!

4 桂(カツラ)の一枚板をカットして作ります。木目の風合いを楽しんで下さい。



3



4

# 公益財団法人 キリン福祉財団

## 令和3年度「キリン・地域のちから応援事業」

### 概要

#### 1. 助成対象となる事業

障害があってもなくても、高齢者でも子どもでも、日本人でも外国人でも、同じ地域やコミュニティで生活する一員として、共に理解し合い・支え合う共生社会の実現を願い、地域における障害児・者、高齢者、子どもなどの福祉向上に関わる、次のような幅広いボランティア活動を実施する団体に対して助成します。災害の復興応援および防災や公衆衛生（新型コロナウイルス感染拡大防止への取り組み）に関しても広く募集します。

- (1) 子ども・子育て世代の福祉向上に関わるもの
- (2) シルバー世代の福祉向上に関わるもの
- (3) 障害や困りごとのある人・支える人の福祉向上に関わるもの
- (4) 地域やコミュニティの活性化に関わるもの

#### 2. 助成対象となる団体

- (1) 4名以上のメンバーが活動する団体・グループであること
  - (2) 連絡責任者は満20歳以上であること
- ※年齢は令和3年4月1日（木）現在の満年齢となります。

#### 3. 助成対象となる事業実施期間

令和3年4月1日（木）～令和4年3月31日（木）

#### 4. 助成金額

1件（1団体）あたりの上限額は30万円（総額4,700万円）。原則として単年度助成です。

#### 5. 申し込み受付期間

令和2年9月7日（月）～10月31日（土）当日消印有効

募集案内・申し込み書などはすべて弊財団のホームページよりダウンロードできます。  
[www.kirinholdings.co.jp/foundation/](http://www.kirinholdings.co.jp/foundation/)



体操・音楽・おしゃべり・料理など高齢者が楽しめるプログラムを支援しました。



障害を持つ子どもたちが楽しく活動するサッカー教室の活動を応援しました。



福祉のちから東京での贈呈式には全国から8団体が集まっていただきました。

## 令和3年度「キリン・福祉のちから開拓事業」

### 概要

本公募は全国や広域（複数の都道府県）にまたがる取り組みが対象となります。地域内での活動は、「キリン・地域のちから応援事業」にてお申し込み下さい（申し込み受付期間は同一）。

#### 1. 助成対象となる事業

障害者福祉分野、高齢者福祉分野、児童・青少年健全育成分野、地域社会福祉分野のボランティア活動を、長期的な視点に立って全国や広域にまたがり実施している、または活動しようと考えている次のような団体に対して助成します。

- (1) 障害者の福祉向上に関わるもの
- (2) 高齢者の福祉向上に関わるもの
- (3) 児童・青少年の福祉向上に関わるもの
- (4) 地域社会の福祉向上に関わるもの

上記の、社会課題・問題を直接解決するための取り組み、啓発活動、政策提言やアドボカシー、ネットワークの構築・拡大、組織強化、人材の育成、技術や技法の研究、実践のための調査や研究、モデル化、生活環境をより良いものにするための保全・保護活動、などが対象です。

#### 2. 助成対象となる団体

- (1) 10名以上のメンバーが活動する団体・グループであること
  - (2) 連絡責任者は満20歳以上であること
- ※年齢は令和3年4月1日（木）現在の満年齢となります。

#### 3. 助成対象となる事業実施期間

令和3年4月1日（木）～令和4年3月31日（木）

#### 4. 助成金額

1件（1団体）あたりの上限額は100万円（総額500万円）。原則として単年度助成です。

#### 5. 申し込み受付期間

令和2年9月7日（月）～10月31日（土）当日消印有効

お問合せ先

公益財団法人 キリン福祉財団事務局（北村・太田）

TEL 03-6837-7013 FAX 03-5343-1093

Eメール [fukushizaidan@kirin.co.jp](mailto:fukushizaidan@kirin.co.jp)

ISBN978-4-909393-23-4 C2036 ¥371E